

障害を持つ YouTuber が制作するコンテンツプラットフォームを視聴する人の認識に関する研究

: 障害を持つ YouTuber が制作するコンテンツのコメント分析を中心に

○ 梨花(イファ)女子大学 博士課程 金載演

鄭益仲(梨花(イファ)女子大学)、金智恵(梨花(イファ)女子大学 博士課程)

[キーワード] 障害者 YouTuber、態度、感性分析

1. 研究目的

現在、YouTube においては、障害を持つ YouTuber (以下、障害者 YouTuber とする) が制作する映像が増えている。しかしながら、障害者 YouTuber を対象とした研究は少ないことが現状である。そのため、本研究においては、障害者 YouTuber が制作したコンテンツを視聴する人のコメントを通して、彼らの映像に対する認識はどうであろうかを確認することを目的とする。

本研究におけるリサーチクエスションは、以下の通りである。

1. 障害者 YouTuber が制作するコンテンツに対する認識や反応はどうであろうか。

2. 研究の視点および方法

本研究におけるデータの収集方法においては、まず、障害者 YouTuber、または、障害認識改善などを中心に活動している障害者及び障害を持つ人の家族が運営している YouTube チャンネルの内、チャンネル登録者 1 万人以上を持つチャンネルに限定した。また、障害種別などを考慮し、最終的には、11 個のチャンネルを選定した。選定されたチャンネルの中、2022 年 4 月を基準として、YouTube ショート動画やライブ映像を除き、アップされたコンテンツの中、各チャンネルごとに視聴回数が高い順として 5 つの動画を選定した。

データの分析においては、R 4.1.3 を活用し、障害者 YouTuber コンテンツに対するコメントの反応や認識を確認するため、自然言語処理あるいは、文章の分析を通して、人の主観的な意見や感情状態を把握する感性分析(박상리他 2020: 1385)を実施した。

3. 倫理的配慮

まず、Moreno et al(2013: 710)によると、YouTube 動画における観察研究は、ビデオが公開されている場合においては、参加者の同意を求めるとは必要はないと言う。そのため、今回の研究においては、日本社会福祉学会研究倫理規程を厳守し、公開された動画のみと限定し、選定された障害者 YouTuber チャンネル名は匿名化した。また、分析対象であるコメントにおいては、ユーザー名はデータの収集対象において除外し、個人情報が入らないように配慮した。

また、今回の発表に伴い、本研究は共同研究であり、日本社会福祉学会の「研究発表の要旨集掲載原稿」への投稿内容について、共同研究者の承諾を得ている。

4. 研究結果

障害者 YouTuber コンテンツにおけるコメントの反応や認識を確認するため、まず、頻度分析を行った。その結果、障害者 YouTuber チャンネルのコメントも内、言及頻度が最も高い単語は、応援(8,059回)であり、その他にも感謝(3,652回)、幸福(2,615回)、勇気(1,566回)、すごさ(1,525回)などがあった。また、感性分析の結果、肯定的なコメントが14,245個(25.1%)であり、否定的なコメントが7,236個(12.8%)よりは多かったが、その他のコメントが35,242個(62.1%)であり、最も多いコメント数を占めた。

5. 考察

本研究の結果によると、障害者 YouTuber のコンテンツに対し、主に言及された単語を確認すると、応援、感謝、勇気など、障害者に対する態度は、未だに同情的な態度に留まっていた。このような研究結果は、これまで韓国における障害福祉サービスや政策が同情的であり、受身的及び、消費的な性格である(허창덕 2012: 69)ということが、社会においても、根強く影響を及ぼしている結果であると考えられる。また、感性分析を行った結果において、肯定的及び否定的なコメントよりは、その他のコメントが多かったことは、このような観点が反映され、障害者と少しかけ離れた態度を維持していると解釈できる。

このような結果は、今までの韓国の障害福祉におけるサービス及び政策が、同情的であり、受身的な性格が強く、その結果、障害を持っていない人においても、このような観点が根強く影響し、認識していることを示唆する。最近、韓国においては、障害者団体による地下鉄でのデモが大きな話題となった。このようなデモに対する認識の中では、共感できる声と共に、不便であり、「被害を与えないでほしい」という不満の意見も多くあった(이소연 2022. 2. 11)。今回の研究においても、障害者に対し、同情的であり、自分とは一歩離れて接する態度が、韓国の社会に長い間、深く根付いていることを再度確認でき、今後、社会における障害者に対する認識をどのように変えるべきかに対し、深く考えるべき時点であると考えられる。

引用文献

- Moreno, M. A., Goniou, N., Moreno, P. S., & Diekema, D (2013) 「Ethics of social media research: common concerns and practical considerations」 『Cyberpsychology, behavior, and social networking』 16(9), 708-713.
- 박상리, 양희린, 최민영, 하민주, 정경태, 구명완 (2020) 「KoBERT 모델을 이용한 YouTube 댓글 분석」 『한국정보과학회 학술발표논문집』, 1385-1387.
- 이소연 (2022. 2. 11) 「 장애인 지하철 시위를 보는 두 가지 시선 」 (<https://www.kukinews.com/newsView/kuk202202100163>, 2022. 6. 21).
- 허창덕 (2012) 「브론펜브레너의 생태학적 체계이론에 의거한 장애인 복지정책 및 서비스의 분석」 『재활복지』 16(2), 57-80.